

# アムスルだより

No. 1 創刊号

1993年 5月10日

Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所



〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

TEL:098-987-2304

FAX:098-987-2875



ごあいさつ

こんにちは。阿嘉島臨海研究所です。美しいサンゴ礁に囲まれたここ阿嘉島に、研究所ができてもうすぐ5年になろうとしています。これまでサンゴを中心とした研究を行い、その主な成果は年1回発行の機関誌「みどりいし」に掲載してきました。しかしいまだに「研究所っていったい何してるの?」と聞かれることがたびたびあります。そこで、今月より『アムスルだより』を時おり発行し、地元の皆さんに、私たちの活動を紹介していきたいと思えます。アムスル(AMSL)とは、阿嘉島臨海研究所 Akajima Marine Science Laboratory のイニシャルです。

阿嘉島は冬でも暖かい?

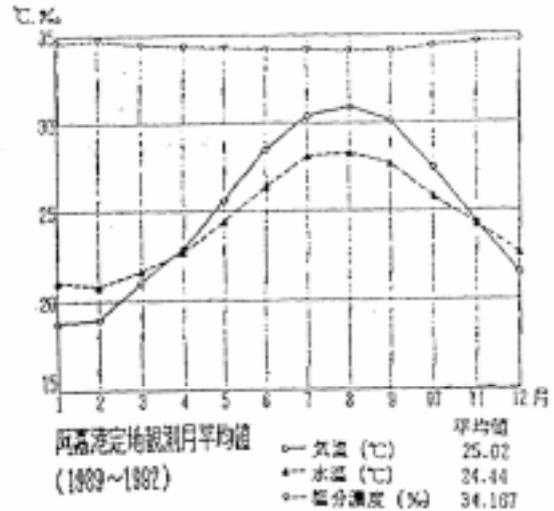
毎朝港の棧橋で「奇妙な機械を海に下ろして、何をしてるのかな?」と思われた方もいるのではないのでしょうか。実は研究所では設立以来、毎朝10時に阿嘉港で水温などの観測をしています。そこで今回は、今までのデータから、阿嘉島の気温と水温についてお話ししましょう。

次ページ上の図は阿嘉港での1989~1992年の4年間の気温・水温・塩分濃度の月平均値を表しています。

まず気温( )の変化を見てみると、冬は低く夏は高いのは当然ですが、阿嘉島では最も気温が低い1月でも18.8度と、東京の5月並みです。また最も気温が高いのは8月で30.9度になり、東京より約3度高い値です。しかし、都会のビルの谷間で生活している人達にとっては、潮風が涼しく感じられるかもしれませんね。1月と8月の平均気温の温度差は12.1度で、東京の22度と比べて気温差が小さく、また過去4年間の気温を平均すると25.0度となり、東京の年間平均気温の15.3度より9.7度も高い値です。このように、四季はありますが、年平均気温が20度以上あり、まわりを海で囲まれている事によって、夏と冬の気温差が小さい気候を亜熱帯海洋性気候と言います。

水温( )も気温と同じような変化をしていますが、水は空気よりも温まりにくく冷えにくい性質を持っているため、その季節変化は気温よりもいくぶんゆるやかです、4年間の平均水温は24.4度で、最も水温が高いのは8月の28.3度です。しかし浅いリーフの中の海水は、強い直射日光で40度近くま

で温まることもあり、泳いでいてまるで温泉のように感じられます。また最も水温が低い2月でも20.8度あり、西表島の22.0度よりは低いです。真冬に裸で泳ぐ観光客がいても不思議ではないはずですね。しかし温暖な気候に慣れた阿嘉島に住む人にとっては、やはり冬は寒く感じるもので、コタツやストーブの世話になることもあります。これらのデータは研究所に毎月掲示しますので、どうぞ参考にして下さい。



阿嘉島の海より - サンゴの産卵 -  
 多くの陸上生物の繁殖時期が気温の変化に影響されるのと同じように、海中の生物の場合は水温に影響されます。ここ阿嘉島では毎年5・6月の満月のころの夜に、テーブルサンゴやエダサンゴと呼ばれているミドリイシサンゴが、一斉に産卵するのをご存知でしょうか。このサンゴの産卵も水温の上昇と深く結びついています。多数のサンゴが体内に作ったたくさんの卵を、そろって体外に放出する様子は壮観ですが、この卵の準備は実は前の年の9月ごろから始まっているのです。今年の2月に最低を記録した水温は、徐々に上がってきました。それに伴い、白く小さかった卵は、大きくなってきました。しかし5月6日の満月の時点でも、ほとんどのサンゴはまだ十分な成熟に達していません。そのため、今年は成熟の進んだ一部のサンゴが満月から何日か遅れて産卵し、大部分は6月4日の満月のころに産卵すると予想してい



ます。さて私たちの予想は当たりますやら。アムスルではサンゴの産卵の研究をしています。サンゴの産卵を見つけた方は是非ご一報下さい。

7月10日発行予定の、次号ではサンゴの産卵についてさらに詳しくお話しします。